

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名【新】国民文化祭・メディアアート展開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

岐阜県においては、令和6年度に第39回国民文化祭『「清流の国ぎふ」文化祭2024』が開催される。

このことについては、本学学長が国民文化祭基本構想検討会議の委員となるなど、深くかかわっているところであるが、その基本構想にうたう、「オンライン通信やデジタル映像等の活用といった様々なDX推進の取組みにより、文化芸術とデジタル化の融合を図りつつ、年齢、性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが参加できる新たな交流によって、人と人とのつながりや生きがいを生む点など、本学がその理念に掲げる、「科学的知性と芸術的感性の融合を通じて先端的な芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやモノづくりのあり方などを社会に提案する」ことに深く重なるものがあると考える。

については、令和6年の清流の国文化祭2024の機運醸成に向け、本学ならではの、学術面からの様々な発信をしていきたい。

(2) 事業内容

令和6年度に『DX時代のメディア表現～新しい日常から芸術を思考する（仮題）』という展覧会を実施する。そのための作品群の制作を行う。

具体的には、世界的メディア・アーティスト藤幡正樹（元東京藝術大学・慶應義塾大学教授）の代表作『Light on the net』の再制作を行う。この作品は、ソフトピアジャパンセンタービルに1996年～2000年頃まで設置されていたもので、昨今のDX時代を四半世紀以上先取りし、90年代にいち早くオンラインのコミュニケーションをテーマにしていたものである。

本作をリサーチ、アーカイブを整備し、再制作を行うことで、岐阜県をメディアアートの聖地とし、世界的な人材交流の場としていくことにつなげる。

また、そのうえで、令和6年度には、デジタルトランスフォーメーションのヒントとなる、アート思考を一堂に会したメディアアートの展覧会を実施する。メディアアートは、数学的・科学的発想、技術や工学を応用した新たな創造性、技術が有史以来培ってきた温故知新の哲学を統合してきた分野であり、DX時代にSDGsを先導するアート思考を展示から体験し、議論することで、これからの社会を豊かにする価値観を発信することを目指す。

(令和5年度＝調査研究の実施、令和6年度＝再制作、展覧会実施)

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	104	作者謝金
旅費	138	業務旅費
消耗品費	25	資料コピー代等
役務費	36	通信運搬費
委託料	4,697	委託費
合計	5,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」文化祭2024の関連事業として実施していく。

(国民文化祭当基本構想検討会議の委員である、本学学長鈴木宣也提案事業)

(2) 後年度の財政負担

令和6年度の国民文化祭以後は、なし

(3) 事業主体及びその妥当性

学術色が強い事業であり、また再制作の作品権利者である、藤幡正樹氏(元東京藝術大学・慶應義塾大学教授)との関係性から、岐阜県(本学)にて実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和6年度の清流の国文化祭2024に実施するシンポジウムを念頭に、令和5年度にメディアアートの作品の再制作のための調査研究を行う。
（令和6年度に、作品再制作および展覧会を実施する。）

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

調査研究業務が主体となるため、指標にはなじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	(令和2年度事業実施なし)
令和3年度	(令和3年度事業実施なし)
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない

(評価)

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3:期待以上の成果あり
2:期待どおりの成果あり
1:期待どおりの成果が得られていない
0:ほとんど成果が得られていない

(評価)

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている

(評価)

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

メディアアートの意味するところを、平易に表現し、広く理解してもらう方法を工夫する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

令和6年度の「清流の国ぎふ」文化祭2024に向けて、IAMASの研究成果を広く発信し、理解を得るようにする。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント

又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせる理由
や期待する効果 など